

岩手中・高等学校

創立百周年記念碑

建立プロジェクト

石に刻む、次の百年。

これからの百年を見守る石割桜



完成イメージ

岩手中・高等学校
創立百周年記念

文字デザイン

校章のモチーフにもなっている石割桜。

その姿をかたどったシルエットには、百年にわたり受け継がれてきた「石桜精神」を重ねています。

立体的な造形によって、記念碑としての象徴性を備えるとともに、学校の風景を形づくるひとつのオブジェとしての存在感を与えました。

文字には筆文字を思わせる力強さを取り入れ、いままで岩中・岩高が培ってきた伝統と歴史を宿しています。一方で、直線や角を印象的に用いることで、これからの時代へ向かう新しさも示しました。

過去を受け継ぐだけではなく、未来へつないでいくこと。この記念碑がこれからの岩中・岩高生を見守り、日々の学校生活の中に長く佇み続けることを願っています。

山の石が記念碑になるまで

1 採石

記念碑に使用する「姫神小桜」は、盛岡市玉山区の姫神山の麓で採れる石です。姫神山麓の地下深くにあったマムマだまりが長い時間をかけて冷え固まり、約1億年前に形成されたと考えられています。淡い桃色を含んだ花崗岩で、温かみのある色合いと美しいツヤが特徴です。磨いた後のツヤが長く保たれることでも知られ、岩手を代表する銘石のひとつです。



2 小割

山から採れた大きな原石は、まず扱いやすい大きさに分ける「小割（こわり）」を行います。姫神小桜は非常に硬いため、削岩機で太い穴を開け、そこに「矢」と呼ばれるくさびを入れます。石の状態を見ながら慎重に打ち込み、狙った位置から割っていきます。



3 切削

小割した原石は、トラックで工場へ運ばれます。写真の原石は重さがおよそ6トン。工場では専用のワイヤーなどを使い必要な寸法へと切り出していきます。この工程を経て、自然な形だった原石が記念碑の形へと近づいていきます。



4 磨き

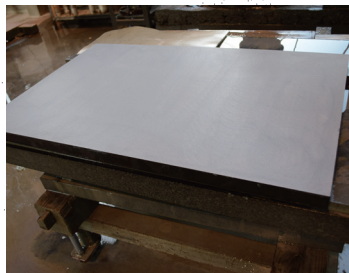
切削した石は、機械を使って表面を磨きます。今回使用する石は、幅1.5m × 高さ0.9m × 奥行0.24m、重さは約1トンです。7種類の砥石を使い分けながら段階的に磨くことで、石本来のツヤが現れ、汚れも付きにくくなります。こうして原石は、記念碑に使用する石へと仕上がっていきます。



石に絵を刻む技、南部点刻



記念碑に使用している「南部点刻（なんぶてんこく）」は、黒御影石の表面をノミ一本で彫り、点の集まりで絵や模様を描く技法です。磨き上げた黒い石を彫ると、内側の白い色が現れます。彫る強さや点の密度を変えることで濃淡や陰影を生み、写真のような繊細な表現へと仕上げます。一度彫った部分は元に戻せないため、一点ごとに高い精度が求められます。石そのものに刻むことで、屋外でも長い年月にわたってその姿を残すことができます。



磨く前



磨いた後

記念碑制作

吉田飛鳥（よしだ・あすか） | 南部点刻職人・彫刻師
岩手高等学校出身。高校時代は囲碁将棋部に所属。2003年に祖父の代から続く川目石材に入り、三代目として家業を継ぐ。2004年から石に微細な点を彫る「影彫り」を独学で学び、2016年に独自技法「南部点刻」を確立。現在は自治体や学校からの依頼を中心に、記念碑などの制作を手がけている。

YouTube チャンネル



ホームページ



記念碑デザイン

千葉潔孝（ちば・きよたか） | グラフィックデザイナー
岩手中学校・岩手高等学校出身。中高6年間、囲碁将棋部に所属。MCL盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校卒業。現在は盛岡を拠点に、「kuromame」の屋号でフリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。印刷物を中心に、ロゴやブランディング、広報物などのデザインを手がけている。

Instagram



